

シナイ通信

第23号

平成25年9月30日

NPO 法人 シナイモツゴ郷の会



TEL/FAX 0229-56-2150

MAIL shinaimotsugo93ks@ybb.ne.jp

<http://www.geocities.jp/shinaimotsugo284/>

989-4102 宮城県大崎市鹿島台木間塚
字小谷地 504-1 鹿島台公民館内

生き物観察会で自然再生の効果を実感

移植池でシナイモツゴとゼニタナゴが定着し河川へ生息拡大

侵略的外来種の被害と対策を語るシンポを 11/16 に開催

4月以降、様々な活動を展開しました。第一は宮城県内6校のシナイモツゴ里親小学校の支援、すべての里親小学校で新メンバーの里親を熟年インストラクターがやさしく指導しながら、卵からシナイモツゴを育ててもらっています (P7-12 参照)。

第二はため池と河川の生き物調査を地域住民や大崎市の小学生などの参加を得て計4回実施することができました。この観察会では参加者が魚や貝類を採集しながら直接観察することにより、参加者は見事に復元した水辺の自然を実感することができました (P2-4 参照)。今後も自然再生活動の大切さを多くの方に理解していただきながら、活動の拡大を図ります。一方、シナイモツゴとゼニタナゴが再発見されたため池として最も重要な桂沢ため池では2007年ころからゼニタナゴが減少傾向を示しています。原因究明と対策を検討中です。

第三はオオクチバス駆除用ツールの一つである人工産卵床の改良型を用いて、大崎市化女沼で駆除試験を実施し多くの卵やふ化仔魚を駆除することができました。今回用いたのは当会が開発した二段式人工産卵床です。これを用いることにより、産卵のあった人工産卵床では卵とふ化仔魚のすべてを回収することが可能になりました (P13、P16 参照)。もちろん、繁殖抑制を効果的に行うためにはタモ網などを使った浮上稚魚

の駆除や様々な技術を駆使した親魚の駆除が必要であることは言うまでもありません。

第四はシナイモツゴ生息池の管理保全を担う農業者を支援するシナイモツゴ郷の米認証制度の継続的活動です。シナイモツゴ郷の米を栽培する水田や用水を確認し、シナイモツゴ郷の米づくり手の会へ生き物ブランド米「シナイモツゴ郷の米」の認証ラベルを発行しました。づくり手の会は今年も安全・安心・美味のひとめぼれを生産、好評販売中です (P6 参照)。

第五は成果の発信と情報交換の場として、



シナイモツゴ郷の米を栽培中の水田
を調査する郷の会のメンバー 6月

共同シンポジウム「水辺の自然再生」を11月16日大崎市古川で開催します。貴重な自然を次世代へ継承するために、里親小学校の担い手たちに登壇してもらい、さらに、対策が急務となっている侵略的外来種について情報交換します (p5 参照)。是非、ご参加ください。(文責 高橋清孝)

おおさき生きものクラブ 生き物観察会

「シナイモツゴとゼニタナゴを守ろう」に参加して

浅 野 功

2013年4月から、遊び、学び、楽しみながら大崎市の自然や生きものに親しむ「大崎生きものクラブ」が始まりました。5月に古川化女沼を会場にNPOエコパル化女沼が中心になり第1回目の行事「身近に見られる山菜を食べてみよう」が行われ、今回はそれに続くもので、6月15日（土）シナイモツゴ郷の会が中心となって行われました。

参加者は小学4年生から中学2年生46名とスタッフとして他のNPOの方々や市職員の方々、シナイモツゴ郷の米づくり手の会、シナイモツゴ郷の会合わせて23名、総勢69名で開催されました。



会場は、生きもの観察の場として鹿島台広長地区周辺の小川、シナイモツゴ等についての学習の場として大迫地区にある児童生徒の勤労体験学習施設鹿島台学童農園の2箇所で行われました。

10時45分頃、会場に参加者のバスが到着、開会行事後、三角網やたも網を手には、小川に入りすくっては網の中を見、すくっては見を繰り返し、魚を見つけて歓声を上げながら、約1時間、採集と観察を行いました。あいにくの小雨で雨具を着ての作業で汗をかき、また、夢中になって観察し、びしょ濡れの子供が大勢いましたが、元気な子供たちの声に押され、天気の方も徐々に回復しました。

観察の中で大変貴重なシナイモツゴ、スナヤツメやヨコハマシジラ(二枚貝)の生息が確認され、思わぬ魚や貝との遭遇に、郷の会の魚のパイオニア高橋副理事長も感激していました。



次の会場の学童農園に移動し、玄関ロビーに小川で捕獲した魚やシナイモツゴ、ゼニタナゴなどの水槽を展示して第2部の学習会を行いました。高橋副理事長が今回の生きもの調査結果やこれらの魚について解説をしました。捕獲した魚の中にシナイモツゴが見つかり、これはため池から小川へと徐々に生息域が広がっているためとのことでした。

昼食はシナイモツゴが生息するため池の水で栽培したシナイモツゴ郷の米のおにぎりとトン汁を皆で味わいました。昼食後、郷の会佐藤理事によりスライドを使用して「シナイモツゴについて」「シナイモツゴ郷の会の活動について」、また、郷の米づくり手の会吉田会長により昼食に味わった「シナイモツゴ郷の米について」という内容で説明・紹介がありました。子供たちからシナイモツゴの餌やオイカワの生態について質問があり、興味・関心の高さが伺われました。学習会を終えてちょっとした時間でしたが屋外にある高台に上ったりして解放感を満喫し、また、参加者一同、笑顔笑顔の記念写真撮影でこの行事を終了しました。



地域の生き物調査レポート（山谷地区）

坂本 啓

平成25年8月4日（日）、大崎市鹿島台山谷地区で毎年恒例の生き物調査が行われました。当日は山谷地区住民とシナイモツゴ郷の会会員約40名が参加し、広長川の4地点で調査を行いました。今回の調査では、絶滅危惧種であるメダカ、ギバチをはじめ、ギンブナ、モツゴ、オイカワ、ジュズカケハゼ、ヨシノボリ、ドジョウなど5科8種の魚類が確認できました（シナイモツゴの幼魚と思われるものも見られましたが、未同定です）。特に、ギバチはお腹の大きな産卵間近のメスが確認され、豊かな自然が着実に回復してきていることが感じられました。



地元の子どもたちに魚の話をしてながら調査する郷の会会員

これらの地点は、数年前まで外来魚のオオクチバスが確認されていましたが、地元の皆さんによる周辺ため池での外来魚駆除活動により、バス稚魚の供給源が絶たれ、今回の調査でもバスは確認されていません。バスがいなくなった川では小型の生き物が増えており、今年もスジエビ、ヌカエビ（一部ミナミヌマエビ含む）が大量に確認されています。また、最上流部の調査地点では、タガメの近縁種で水生昆虫界の「イクメン」である『コオイムシ』（メスがオスの背中に卵を産み、オスが卵を保護する）も観察されました。（うーん、見習わないとなぁ。。。）

このような豊かな自然を守っていくために、ため池や河川の定期的なモニタリング調査は欠かせません。今後も地元の方々と協力しながら、楽しく活動が続けていければと思います。



山谷地区の小川で採集したイクメン、コオイムシ

共同シンポジウム

水辺の自然再生 ゆたかな自然を次世代へ

2013年11月16日(土)

10:00~17:30 (参加費:無料)

宮城県大崎合同庁舎(宮城県大崎市古川旭4丁目)

主催:NPO法人シナイモツゴ郷の会、旧品井沼周辺ため池群自然再生協議会

全国ブラックバス防除市民ネットワーク、3.11北上地域農業復興会議、ナマズのがっこう

後援:大崎市、大崎市教育委員会、JAみどりの

公益財団法人大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)

問い合わせ先:シナイモツゴ郷の会 MAIL:yy0910@ktj.biglobe.ne.jp, TEL:0229-56-2150

第1部 ゆたかな自然を子どもたちへ 10:00~12:00

【地域の宝シナイモツゴとゼニタナゴを守るために】

- 地域ぐるみの取組みの必要性和体制づくり 二宮 景喜(シナイモツゴ郷の会)
- 本校の里親活動について 那須 孝(鹿島台第二小学校)

【地域から全体へ】

- 一般市民との交流をめざして 吉田 千代志(シナイモツゴ郷の米づくり手の会)

【リレートーク】

- 里親インストラクターの里親支援活動 佐藤 豪一(シナイモツゴ郷の会)
- 里親小学校の生徒(鹿島台小飼育委員会、鹿島台第二小4年生)
- 市民 (イベント参加者父兄など)
- 農業者 西澤 誠弘(仲間ふゆみずたんぼ生産組合)

【自由討論】

第2部 侵略的外来動物を防除してゆたかな自然を未来へ 13:00~17:30

【特定外来動物の影響と対策】

- 外来水生動物の対策と在来動物の保全 西原 省吾(東京大学大学院)
- 市民団体からの提言 小林 光(全国ブラックバス防除市民ネットワーク)

【注目の防除技術と体制づくり】

- 鹿児島県閼牟田池で開発したブルーギル駆除方法 徳永 修二(新和技術コンサル)
- 外来両生類と爬虫類(ウシガエル、カメ類など)の駆除技術 片岡 友美(生態工房)
- 市民と漁業者の連携による琵琶湖の外来魚防除体制づくり 高田 昌彦(琵琶湖を戻す会)
- オオクチバスの繁殖生態と人工産卵床の改良 高橋 清孝(シナイモツゴ郷の会)

【リレートーク】

- 身近な水辺に侵入する外来エビの実態 池田 実(東北大学大学院)
- 市民による外来種の防除 天野 隆雄(三ツ池水辺クラブ)
- 池干しによるオオクチバス完全駆除 三塚 牧夫(ナマズのがっこう)
- オオクチバスの低密度管理技術 藤本 泰文(宮城伊豆沼・内沼環境財団)
- ブルーギルの生態を利用した駆除技術 芦沢 淳(宮城伊豆沼・内沼環境財団)
- 広げよう「にぎやかな水辺づくり」活動 半沢 裕子(手賀沼生物研究会)

【総合討論】

情報交換会 18:30~20:30

宮城県大崎市かしまだい さと まい シナイモツゴ郷の米通信

「黄金色の稲穂...いよいよ平成25年産新米の収穫です！」

いよいよ「かしまだいシナイモツゴ郷の米」の刈り取りが始まりました。
きれいな水を使用し、減農薬・減化学肥料で栽培した、お米本来の粘り・香り・味が堪能できる、地域の想いが詰まったお米です。
発足六年目を迎え、小さな取り組みでも年々ご理解を深めて頂いていることに心から感謝申し上げます。本年も皆様のご愛顧、どうぞよろしくお願い申し上げます。
会員一同

シナイモツゴ郷の米「7つの約束」

1. 環境保全米（減農薬・減化学肥料）での栽培。
2. 「NPO法人シナイモツゴ郷の会」の認証制度で認められた農薬・肥料を使用。
3. 検査基準は1等米品質。
4. 玄米1の販売は、色彩選別してお届けします。
5. 「つくり手の会」から、産地直送、産地販売。
6. 環境保全活動と継続的に取り組んでいる。
7. 地域を守り続ける強い信念。

天然ミネラル豊富なシナイモツゴの地産に努め、自然の恵みと伝統を大切に育てています。

シナイモツゴ郷の米の取り組み

- ①天然記念物シナイモツゴがすむ「淵め池」の草刈り・池干し・補修作業など、環境保全活動に取り組んでいます。
 - ②子どもたちによるシナイモツゴの放流会を毎年開催。
 - ③農業用水の水質調査を、NPO法人シナイモツゴ郷の会が実施。（年2回）
 - ④減農薬・減化学肥料で栽培した「ひとめぼれ」後は刈り取りを待つばかり！
 - ⑤収穫後、丁寧に乾燥・調整します。
- 平成25年度産新米のご注文は、お電話・FAX・別紙ご注文書でも承ります。

収穫イベントなどの様子



平成24年度収穫祭



米をいただく会です。



地元テレビ局の取材！

昨年まで3年間続けて、特に都市部から参加者を募って収穫祭やイベントを開催しました。

子どもたちや農業に関心のある方も毎年多く参加し、初めての稲刈りや棒がけ作業に汗を流しました。

自然環境の素晴らしさや、お米本来の美味しさをじかに感じて頂いた事は、私たち「つくり手の会」にとっても大きな励みとなりました。

TPP問題や原発事故に伴う放射能汚染の影響など、環境や食品を取り巻く環境は目まぐるしく変わりつつあります。

これからもしっかりと米づくりを心がけ、今後も安全で安心な「シナイモツゴ郷の米」として頑張ります！

シナイモツゴ郷の米 好評販売中です！

安全で安心な美味しいお米！



東日本大震災時に発生した、福島第一原発事故に伴う放射線物質漏れのため、平成23年度と平成24年度には土壌測定や、事前に刈り取った稲の放射線物質測定（検出限界値1ベクレル）を厚生労働省登録検査機関に依頼し、「不検出」との結果を頂きました。

- 【郷の米】
◇農薬・化学肥料削減栽培米（農林水産省ガイドライン実績報告）
◇第三者機関であるNPO法人の水質・水系認証米
◇出荷米検査で全量1等米（環境保全米ひとめぼれ）
◇大崎市こだわり農産物認証米
☆病院食用料（平成21年度）☆学校給食用米（平成23年度）

桜下開花亭 郷の米が食べれるお店！

Aコープ鹿島台店
スーパー吉村
すがい酒店

取扱い販売店
3店舗



今年もどうぞよろしくお願いいたします。



ご注文後、すぐに発送いたします！

●つくる人・食べる人・みんなの力で地域の環境と農業を守り続けるために！

■お申し込み・お問い合わせは「かしまだいシナイモツゴ郷の米つくり手の会」事務局 まで
〒989-4102 大崎市鹿島台木間塚字福芦464-28
TEL&FAX / 0229-56-5746 <http://satonomai.jp/>
ホームページ受付中！（＾＾）

H25 年のシナイモツゴ里親支援活動

(1) 活動報告

佐藤 豪一・浅野 功

NPO 法人シナイモツゴ郷の会は、絶滅の危機にあるシナイモツゴを保護し、シナイモツゴが普通に生息できる自然を取り戻し、生態系全体の保全につとめることを目的として活動しています。その目的を達成するための事業の一つとして、シナイモツゴを人工的に増殖し、個体数を増やすことに協力する里親制度を平成 17 年から設けています。

里親会員は次の 3 通りがあり、募集時期を定めて希望者の中から本会で決定し、飼育や増殖を委嘱しています。ただし、他地域のシナイモツゴとの遺伝子攪乱を防ぐため、学術研究の目的を除き宮城県外への移出は行っておりません。

里親A…卵から幼魚まで 1 年間育てる会員。主に小中高校や団体が対象

里親B…稚魚から成魚まで育成する会員。主に個人、小中高校、公共団体が対象

里親C…シナイモツゴが生息するため池を管理し保全する会員。主にため池所有者・管理者が対象

平成 25 年度の里親A会員参加団体は、以下の 6 校(4～6 年生)となりました。

- | | |
|--------------------|------------------|
| ◆ 鹿島台小学校(大崎市鹿島台) | ◆ 開北小学校(石巻市) |
| ◆ 鹿島台第二小学校(大崎市鹿島台) | ◆ 鳴瀬桜華小学校(東松島市)※ |
| ◆ 小牛田小学校(美里町) | ◆ 大野田小学校(仙台市太白区) |

※東松島市立小野小学校と東松島市立浜市小学校が統合し新設された。

里親A会員に関するおよその活動行程

4 月…活動の打合せ

5 月…事前学習会(授業あり)、成魚の回収、池の掃除・準備
グリーンウォーター・液肥・ミジンコの投入
産卵ポットの設置

6 月…シナイモツゴの発眼卵の收容(授業あり)
シナイモツゴ放流会(授業あり)

7 月…人工餌料開始

7 月以降は翌年の 5 月まで里親による継続した飼育管理となります。
また、事前学習会以外に講話や飼育指導などの希望があれば、随時インストラクターを派遣しています。

●事前学習会 5月

里親になってもらう前にシナイモツゴの学習をします。昨年と同様「シナイモツゴについて」「シナイモツゴの育て方」「シナイモツゴ郷の会について」の3本立てとしました。できる限り児童らから質問を受ける時間を設けています。



2013年5月31日美里町立小牛田小学校(5年生)



2013年7月4日石巻市立開北小学校(2年生)

●成魚の回収 5月～6月上旬

昨年の里親が1年間育てたシナイモツゴを、今年の里親が回収しました。



回収の様子 2012 小野小学校(東松島市)



2013年5月31日小牛田小学校(美里町小牛田)
1年間育てられたシナイモツゴ

●池の掃除・準備 5月～6月

多くの里親校で成魚の回収と同日に池の掃除を行います。

掃除後は池によっては数日間天日干しした後に注水してもらいます。

●グリーンウォーター(GW)・液肥・ミジンコの投入、産卵ポットの設置

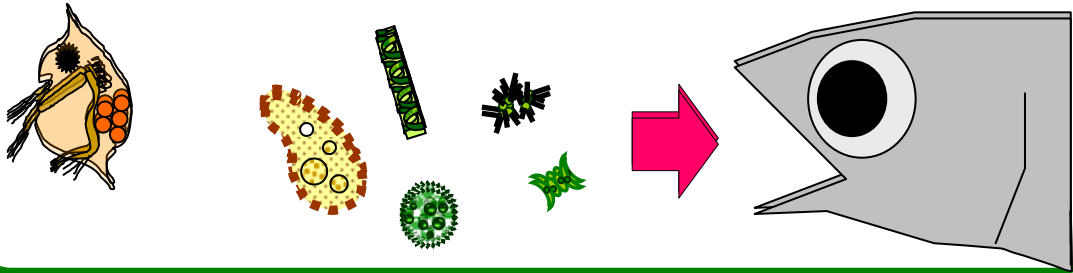
池の塩素が抜けた後、稚魚の初期餌料となるプランクトンの増殖を促進するため当会の「ミジンコ研究会」で作製したグリーンウォーター(植物プランクトン)と液肥(有機質肥料)を池へ投入しました。更に後日、培養したミジンコも入れます。



ミジンコ研究会作製の(左)液肥と(右)グリーンウォーター

シナイモツゴ稚魚の初期餌料について

当会では 2011 年までシナイモツゴの初期餌料はミジンコ主体としていましたが、2012 年春から更に小さな植物プランクトン主体へ変更しました。また、ミジンコの発生源として田土を毎年使用していましたが、土の調達や管理の面から考えて、田土は積極的には使用せず人工的に増殖したミジンコを投入しています。シナイモツゴの生存率が高まるよう今後も継続して調査・改良をしていきたいと思っています。



池にプランクトンやミジンコが十分増えるまで2～3週間程度の期間を確保してもらいます。その間、採卵池に産卵ポット(プラスチック製植木鉢)を設置し、シナイモツゴが産卵するのを待ちます。



●シナイモツゴの発眼卵の収容 6～7月上旬

産卵されたポットのうち、数日以内に孵化しそうな発眼卵を選んで里親校へ運びます。



2013 年 6 月 18 日大崎市立鹿島台第二小学校へ
発眼卵の収容



2013 年 6 月 26 日仙台市立大野田小学校へ
発眼卵の収容

●発眼卵の追加、孵化状況の調査など

産卵ポットを里親校へ運んだあとは、池の状態や孵化の具合を確認しに行きます。状況によって随時発眼卵を追加します。



●池の管理

鹿島台小学校の校舎前にある大きなコンクリート池の水位の低下が続いていましたが、池底に大きな亀裂が入っていました。東日本大震災やそれ以前の大地震によるものと思われます。昨年末に本格的な大改修工事を行い、春の里親の授業が始まるまでに工事が終了しました。



●里親によるシナイモツゴ放流会

2013年6月28日

昨年からシナイモツゴの初期餌料をミジンコから植物プランクトン主体へ変更したのが功を奏したのか、全里親校合わせて1000尾を超えるシナイモツゴが鹿島台へ里帰りしました。里親を代表して鹿島台小学校の4年生が大崎市鹿島台地内のため池へ放流しました。ため池には当初、外来魚が侵入していたため地域の住民らと協力して数年前から駆除作業等を重ね、シナイモツゴが安全に生息できる環境を整えてきたものです。

放流方法の説明の後、各組の代表者が放流しました。地域の皆さんや里親の皆さんの努力によって、今年もまたシナイモツゴの生息域が広まりました。



(2) ソーラー発電エアレーションによる飼育試験

高橋 清孝

当会はだれでも出来る簡単技術の開発と導入を進め、市民による自然再生を目指しています。この一環として里親飼育池でソーラー発電を電源とするエアレーションの実験を実施中です。

各里親校では校庭池や大型の水槽でシナイモツゴを飼育しています。屋外で飼育するため電源の確保が困難なため、エアポンプを用いたエアレーション（通気）を行うことが出来ませんでした。このため、池や水槽によって水質が悪化し稚魚の生き残りが減少することがありました。昨年の飼育実験でエアレーションを行うことにより水質を改善し生き残りを格段に高められることが分かりましたので、ことはソーラー発電システムを導入し試験しています。発電量は 55W/時間です。会員が工夫を重ねて、風雨に耐えられるようソーラーパネルの台座やバッテリーなどを収納する容器を作成しました。7月に1か所の里親飼育池に設置し状況を観察しています。幸いな事に、現在まで停止することなく稼働しています。もちろん、稚魚も元気に生育しています。

水温が高く水質が変動しやすい夏～初秋は問題なく乗り切ることが出来ました。今後、さらに日照時間が短くなる冬期間の稼働について注目されるところです。

この試験は一般公益法人大阪コミュニティ財団（東洋ゴム環境基金）の助成を受けて実施しています。



ソーラー発電システムの設置風景 手前が水槽 7月後日、ソーラーパネルを3枚に増設しました。

(3) 里親活動について

二宮 景喜

5月から現在までの里親活動について振り返り報告します。

小学校の里親活動は前年から飼育してきた稚魚の回収から始まりますが、今年は大変な好成績でした。回収した稚魚の数は、鹿島台二小 332 尾、鳴瀬桜華小 244 尾、石巻開北小 219 尾、小牛田小 198 尾、仙台大

野田小 180 尾で合計 1173 尾に上り、例年の約 3 倍になりました。鹿島台小は、昨春秋に急きょ飼育池の大規模改修をしたため、池での飼育を中断する事態になりましたので、この数字に入っていないのが残念です。

好成績をあげた背景には、何と言っても各里親校の子供たちや先生方が一生懸命育

ててくれたことがあります、一昨年より始めた孵化直後の仔魚が捕食する植物性プランクトンを確実に発生させる取り組みが機能したことがその第一の理由として考えられます。この点につきましては、本号掲載の佐藤豪一・浅野功さんの記事をご参照ください。

この成果を受けて、6月28日に行われたシナイモツゴ放流会には、里親小学校の代表として鹿島台小学校の4年生全員が参加、地域の人たちなども加わり、今までにない約1000尾を鹿島台地区のため池に放流しました。いつもより多い分だけ、このため池がシナイモツゴが普通にいる池としてすみやかに復活してほしいと願っています。

尚、残り約100尾を個人の里親用に残しております。シナイモツゴ里親制度規約に基づいて希望者にお分けしますので、お申し出ください。なお、個人の里親になるためには本会の正会員又は賛助会員であることが条件です。

さて、本年度の稚魚の回収後の里親活動ですが、今年は学校での学習会の日程と発眼卵の移入の時期をリンクさせないことにしました。今までは学習会の日にあわせて、発眼卵を採り、子どもたちに見せ、子どもたちの手で池に入れるように努めてきましたが、日程通り発眼卵を用意することには、今まで大変な無理や苦労がありました。今年は日程に関係なく発眼卵が採れ次第学校に持っていくことにしたので、確かに昨年よりは楽になりましたが、子どもたちに十分に卵を見てもらえないことが多くなってしまいました。

子どもたちにシナイモツゴの学習をしてもらうことは里親活動の根幹となる大切な部分です。その中で子どもたちが発眼卵を直接見て、生命の不思議さを知り、驚き、

感動します。そのような子どもたちの様子を見ることも私たちにも楽しみでした。ままならない産卵時期ゆえに、今のところうまく解決方法がないのが残念です。

今年の繁殖池での産卵状況ですが、6月に異常な渇水期があり心配しましたが、昨年よりは順調に産卵し、発眼卵の採取も昨年ほどは苦勞しませんでした。しかし、シナイモツゴの産卵習性についてわからないところがまだまだ多く、タイミングの計り方が外れることがしょっちゅうでした。水温との関係が密接ですが、温暖化が進んでいるためか、最近では5月にもかなりの産卵がありますので、今後は学校の池の準備など発眼卵の受け入れ態勢をなるべく早く整えておくが必要になると考えています。

現在、シナイモツゴの生育状況はおおむね順調です。多くの学校では孵化した稚魚

の数も多く、来春は今年と同じように多くの稚魚の回収が期待できそうです。ただ、同じようにやっても、それ



ぞれの池によってさまざまな問題点が出てきますので、現在も里親学校を訪問しながら対処しているところです。最後に、里親活動は春夏の活動のピーク時だけでなく、慢性的に人手不足に悩んでいますので、是非皆さんの手助けをお願いします。

会員だより①

化女沼のブラックバス駆除に参加して 橋本 泰佑

化女沼には伝説があります。要約すると、長者には美しい娘がいて、イケメンの旅人が訪ねてきたと。そして、旅人が去った。その後、娘は子供を産んだが、産まれたのは人間の子でなく、白い蛇だった。娘は大変おどろいて自殺したという話です。私の勝手な解釈では、娘が子供を産み、自殺した時、近隣住民はとても驚き、悲しみ、怒って、この沼を化女沼と名付けたのではないかと思います。化女沼の近くに住んでいる人は、近隣の付き合いを大事にし、非常に義理堅いからです。

今回、ブラックバス駆除の試験に参加させて頂き、何度も化女沼を訪れました。最初、試験地への通路が草ぼうぼうで歩行困難な状態だったのですが、これを見たエコパル化女沼の職員の方がきれいに刈り取ってくれました。また、器材の運搬や保管にも細かに配慮していただきました。とても感謝しながら、やはり、化女沼の近くの住民は義理堅いと確信しました。



人工産卵床の設置 5月化女沼

高橋副理事長の発案で、化女沼で人工産卵床によるバス駆除の実験が行われ、バスの産卵が確認されました。高橋さんたちは産卵床のブラックバスの卵の量から見て、

「化女沼は、初期の伊豆沼を彷彿とさせる」というような会話をしていました。今回の試みで、人工産卵床でブラックバスの産卵が確認された結果、化女沼でも人工産卵床の導入が可能と思われました。ブラックバス駆除は外来種問題ではあるのですが、他の外来種問題よりもとても深刻な問題だと感じています。魚は食用としても利用されます。ブラックバスが入った水域では、最



二段式人工産卵床に産み付けられたオオクチバスの卵、下段へ大量に落下している。5月化女沼

最終的にブラックバスや、ブラックバスの口より大きな在来種（コイ、フナ等）のみになってしまいます。ブラックバスに占拠された水域では、生態系が復元することはありません。つまり、ブラックバスが減びると、その水域は無になってしまいます。在来種であれば、一部が減少しても、種が多様であり、その繁殖力で、また再生産が可能です。今、日本は飽食の時代ですが、何が起るか分かりません。東日本大震災も想定外でした。ブラックバス駆除を続け在来種を繁栄させる事は、様々な地域の食料を供給するという観点から、重要な意義があるかもしれません。

ブラックバスは完全駆除出来ないとは私は考

えています。開放的で大きな水域である場合、ブラックバスが根付いた時点で、人間し続けなくてはいけないと思います。この

活動を、如何に続けて行くのかという事が大事になっていくだろうというのが私の考えです。

会員だより②

移動研修会に参加して

イワナの刺身に舌打つ

榎 勉

栗駒山麓の新春を訪ね、感動の一日の移動研修日、4月27日のことです。先にいわきの「アクアマリンふくしま」へ参加したことがありますが、今回で2度目です。何れも、鈴木康文さんからの誘いがあったからです。

化女沼を見学して、一路栗駒山麓へ向かったのは10時半過ぎです。高原大根で有名な耕英開拓地を右に見ながら、一路数又養魚場へ。数又養魚場は、栗駒に勤務した教員の仲間から、初代の数又さんはPTAの役員で、養鯉を始め

りました。イワナの塩焼きの美味しいことは勿論ですが、刺身は珍味で格別です。養魚のイワナでないと刺身は食べられないということから、ここでしか食することができません。遠慮なくご馳走になりました。栗駒の水の米、ご飯も美味しくて、お代わりする会員もいました。塩焼きのイワナを土産にと、奥様に特別に頼みました。

食後は、自由に養魚場を視察。また、その周辺を散策、フキノトウ、ミズバショウ、ザゼンソウ等の花も咲いていて、暫し山野草を観察しました。

午後1時30分、ハイルザームへ。栗駒山懐にあるだけに、風も強く寒さは真冬並み、身体が冷え、ミズバショウの群落の木道を急いで回ることに精一杯でした。

ホテルは暖かく、冷えた体を温めるのに天国です。休憩室にいと居眠りができる程です。温泉に入った会員もいました。温泉プールもあって、文字通りのハイルザームです。また地場産品もあって、お土産を買った方もいます。

午後2時45分、ハイルザームを発ち帰途に向いました。途中尾根から、荒

砥沢ダム崩落地を窓越しに見ることが出来ました。



イワナ料理を味わう会員たち
(4月 栗原市栗駒耕英 勝又養魚場)

たとか聞いたことがあったので、興味深かったのです。

昭和46年に、日本で初めて「イワナの養殖」に成功し、現在は二代目だそうです。

早速昼食、「岩魚の館」へ案内されました。そこは農家の木造民家の座敷、テーブルには塩焼きのイワナ、その刺身とメニューは山菜料理など、豊富に用意されていて、早速ご馳走にな



イワナの美味かったことが印象に残った、郷
の会の移動研修会、有意義な耕英開拓地見学会
でした。

トウキョウダルマガエル 水辺の仲間たち⑦ 高橋清孝

田んぼや池の岸辺で最も普通に見られるカエルです。トノサマガエルと呼ぶ人もいますが、宮城県に生息しているのはトウキョウダルマガエルです。このカエルは関東平野と仙台平野、長野と新潟に分布し、東海～瀬戸内にはナゴヤダルマガエルが分布しています。



土水路の水田はトウキョウダルマガエルの天国 8月鹿島台

す。これらはシナイモツゴとモツゴの分布パターンと類似して興味深いですね。トノサマガエルに比べ手足が短いことからダルマガエルと呼ばれ、関東地方で多く見られたことからトウキョウダルマガエルと命名されたようです。最近まで水田地帯で昆虫などを食べて繁栄して

きましたが、近年激減し、環境省レッドリストは準絶滅危惧（NT）、宮城県は準絶滅危惧種に指定しています。当地、鹿島台ではこんなに沢山いるのになぜ？と不思議に思われるかもしれません。でも、足に吸盤を持たないこのカエルは圃場整備した水田のコンクリート側溝が大の苦手だし、ため池などでは外来種のウシガエルに食べられています。

驚くほど多くの田園地帯で絶滅状態になっています。昔から、親しんできた生き物がここ



土水路の水田ではメダカなどと一緒にのんびり生活しています 8月鹿島台

でも危機に瀕し、助けを求めています。

シナイモツゴ BCC 通信 (2013 年 8 月 19 日配信)

会員の情報共有のための配信メール（1～3 回/月）です。受信ご希望の方はご連絡下さい。

みなさま

残暑お見舞い申し上げます。

東北は立秋直後から猛暑となりました。

お変わりありませんか？

さまざまな報告書作成などに忙殺され

BCC 通信の発行が遅れたことお詫びします。

イベント情報

① 広長地区生き物観察会と池干しブラックバス駆除のお知らせ

期日：H25 年 9 月 8 日（日） 9：30～

集合場所：広長地区公会堂

② 秋のシンポジウム

期日：H25 年 11 月 16 日（土） 10：00～

会場：宮城県大崎合同庁舎 1F 大会議室（大崎市古川）

メインテーマ：水辺の自然再生－ゆたかな自然を次世代へ

ゆたかな自然を守るための外来魚対策を中心に企画

近日中に詳細をお知らせします。

③ 理事会・定例会

期日：H25 年 8 月 24 日（土） 18：00～

会場：大崎市鹿島台公民館

成果情報

① 化女沼ダムの人工産卵床によるブラックバス駆除試験

5 月 5 日 3 箇所にて当会が開発した 2 段式人工産卵床計 15 個を設置、

6 月 22 日までに 13 個で産卵あるいはふ化仔魚を確認。

10 年前の伊豆沼（バス駆除開始前）と同程度の産卵が確認されました。

化女沼に設置した人工産卵床への産卵状況(5月5日～6月22日)					
調査月日	St1	St2	St3	宮泉のみ	備考
5月5日	設置	設置	設置		
5月12日	0	0	0		
5月19日	0	0	0	St2-1個	
5月26日	1	0	0		
6月2日	1	1	4		4,800～33,000個(推)
6月9日	1	1	2		
6月16日	0	0	1	St1-2個	
6月19日	0	0	0	St3-2個	
6月22日	0	0	1		
合計	3	2	8		合計13個で産卵

下段トレーにおける卵と稚魚の回収量は上段トレーの 2 倍以上です。

従来型では回収できない卵とふ化稚魚を含め全量を回収し発見率を高められるのがこの装置の特徴です。

NP0 法人エコパル化女沼と伊豆沼・内沼環境保全財団にご協力いただきました。

② 山谷地区生き物観察会 8 月 4 日

地区を流れる小川で地域の子どもたちを中心に実施。

シナイモツゴ、フナ、モツゴ、タモロコ、オイカワ、タイリクバラタナゴ、メダカ、ギバチ、ドジョウ、ヌカエビ、コオイムシ、マシジミ、タガイ、ヌマガイ

③ 志田谷地地区生き物観察会 8 月 17 日

地区を流れる水路で地域の子どもたちを中心に実施。

コイ、モツゴ、タモロコ、ナマズ、ドジョウ
ヌカエビ、マシジミ

④ 蒜沢地区生き物観察会（登米市）8 月 18 日

地区を流れる水路で地域の子どもたちを中心に実施。

フナ、モツゴ、タモロコ、オイカワ、メダカ、ドジョウ、ヌカエビ

⑤ ソーラー発電を電源とするエアレーションシステムの設置

シナイモツゴ里親校の鹿島台第二小学校へ 55W ソーラー発電を電源とするエアポンプを設置しました。

昨年の実験によりふ化稚魚の飼育水槽でエアレーションをすることにより生残率が格段に向上したことを受け、阿武隈生物研究会の協力を得て実施しました。現在、稼働中で稚魚も元気に成育中です。

⑥ 昨年 5 月に撮影したシナイモツゴ産卵の動画を youtube にアップしています。

郷の会の HP から簡単に入ることが出来ます。是非ご覧ください。

シナイはアイヌ語で大きな川(沢)を意味します。小さな流れが大きな川になるように地道な活動を続けていきたいと思います。